

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 19 章 パート 2

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

天が開かれました。すると主が下りて来られ、私たちも主に続いて共に下りて来ます。

私たちは主の花嫁ですからね。描写がまた素晴らしい。

その目は燃え盛る炎のようで、(黙示録 19:12 新共同訳)

これには、本当に感謝します。なぜなら、私の木、草、藁などは全て燃えてなくなり、消えてしまうから。

キリストの御座のさばきの日、私たちは主の御前に立ち、全ての行い、して来た全ての事が火で試されます。主の目は炎のようで、主が私を、あなたを見ると、私たちの全ての木や草や藁はその場で消えてしまうのです。その事が、私はとても嬉しい。私には自分の木や草や藁がたくさんあって、もう辟易していて、誇りになんか思いません。

しかし感謝なことに、私が主の前に立って最初に主と顔を合わせる時、主の目は炎のようで、木、草、藁は全て消えてなくなります。

丁度あの日、主が父アブラハムに言った時のようです。創世記 22 章。

「あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。」

(創世記 22:2)

「ちょっと待って!! その時点でアブラハムには息子が 2 人いたじゃないか！」

彼には約束の子イサクともう一人、忍耐できず、この件について主を求めず、単に妻の言うことに従っ

た結果の肉の産物、イシュマエルがいました。

それなのに今、主は言われるのです。「あなたのひとり子を連れて来なさい。」「えっ!?!」

言い換えれば、「肉のあなたがしたことは、わたしの目に入らない。わたしはもう思い出さない。わたしにとって、それは問題ではない。」

勿論アブラハムは、自分がしたことへの報いを受けたでしょう。でも私が受け取ったのは「わたしはあなたのイシュマエルを、もう思い出さない。」これが、すごく嬉しい。

ほとんどの人に何人かのイシュマエルが存在するでしょう？肉の思いでやってしまったこと、ちょっと神の手助けをするつもりでしたことなど、大勢のイシュマエルが走り回っています。それらがどうなるか？もう思い出されません！主はそれらのことを思い出もしない。その日にハレルヤ！

主がその目で私を見たら、木、草、藁は消えてなくなります。その目は燃える炎で、私の心を温めて、全てのガラクタを溶かしてしまうのです。

それからまた、主についてこう書いてあります。その目が燃える炎であるだけでなく、

頭には多くの王冠があった。(黙示録 19:12 新共同訳)

あらゆる種類やグループの教会、宗派と呼んでもいいでしょう、それらが主の王冠となる。数日前にこの事について、何人かと話をしていたのですが、

わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。(I コリント 13:12 新共同訳)

だからよく分からない。

教会で大きな帽子を被って、人々に水を振りかけている人、それにローブ(外套)。あんな大きな帽子を被って恥ずかしくないの？と思うのです。と言うか、あんなローブを着て、金のステッキを持って、歩きにくくないの？それで、人に水を振りかけるし。

それから、高級スーツを着て、金のブレスレットにテカテカのオールバックでステージに立って、熱く説教する人をテレビで見かけますよね。

そうかと思えば、サンダル履きでメッセージ>(* Pastor Jon は通常サンダル履き) 何と不適切な。何とまあ…

とこんな風に帽子を被った人やサンダル履きの人、オールバックの男性のようなあらゆる種類のグループや宗派を、またどんな人間もグループも、神はその隔てを打ち破り、実質全ての宗派を一つにします。本当にびっくりですよ。神は隔てを打ち破り、ご自身を知らしめるのです。

そこで私の考えでは、多くの王冠とはこれらの様々なグループや人々のことで、私たちみんなが「あれはイエスだ!! 彼こそ主だ!!!」と叫んで、全員が主に会うのです。

その時、私たちは主の名を知ると書いてあります。

この方には、自分のほかはだれも知らない名が記されていた。(黙示録 19:12 新共同訳)

名前はその性質を表すと知っていますか？長年ここに集っている人は知っているでしょう。これは何を言っているのかというと、シンプルなこと。

主を見た時には、誰もが感嘆します。なぜなら、私たちは、その時に主を知るようには、まだ主を見ていないから。現在は主の一部分でありながら、主ご自身以外は誰も知らない名前があるのです。これが面白い所だと思います。私たちは永遠の時をかけて、主のご性質の細部に至るまで探求するのです。

主の個性、主の美、神聖さにも驚嘆します。今は誰にもはっきり見えていないけれど。

ともかく、主以外は誰も知らない名前があるのです。

また、血に染まった衣を身にまとっており、(黙示録 19:13 新共同訳)

以前ユダヤの結婚についてお話した通り、花婿は、花嫁が処女であったことを証明するため、シーツを差し出さなければなりません。もし処女でなかったら、花嫁は石打ちにされることもあり、少なくとも翌日には離婚されるのです。

私たちはどうですか？ 私たちは失敗し、自分が霊的にメチャクチャであることも分かっています。それなのに主は私たちを「清純な処女」(Ⅱコリント 11:2) と呼ばれる。

どういうことでしょうか。それは、逆転。

主が、いわゆる“血の付いたシーツ”をまといられました。それは主ご自身の血で、それが私の不純さを清め、私の罪や愚かさを洗い流してくれるのです。

私は清い。それは、私の清純さではなく、主が、汚れのない完全なるお方だから。

主が、しみも罪もない聖なる花婿で、私のために死んで下さったから。

だから今、主の衣がこのように血に染まっているのです。

私の清さは、私自身の生き方によるのではなく、主の血潮によるものなのです。

「罪のけがれを」

罪の汚れを洗い清むるは

イエス・キリストの血潮の他なし

あまつ平和を心に満たすは

イエス・キリストの血潮の他なし

感謝です。

主の御名は、その時までには一つしか知らされていませんが、ここに書かれているのは、

その名は「神の言葉」と呼ばれた。(黙示録 19:13 新共同訳)

そして、天の軍勢が白い馬に乗り、白く清い麻の布をまとってこの方に従っていた。

(黙示録 19:14 新共同訳)

これは私たち。読み進めていくと、ある事に気づきます。天が開かれ、私たちも主に従って下りて来ますが、私たちは戦いません。主が確実に勝利するのを見届けるだけです。

見て下さい。天の軍勢が主に従って下りて来ますが、私たちも白い馬に乗って来て、

白く清い麻の布をまとってこの方に従っていた。(黙示録 19:14 新共同訳)

この方の口からは、鋭い剣が出ている。諸国の民をそれで打ち倒すのである。また、自ら鉄の杖で彼らを治める。この方はぶどう酒の搾り桶を踏むが、これには全能者である神の激しい怒りが込められている。**(黙示録 19:15 新共同訳)**

この方の衣と腿のあたりには、「王の王、主の主」という名が記されていた。**(黙示録 19:16 新共同訳)**

わたしはまた、一人の天使が太陽の中に立っているのを見た。この天使は、大声で叫び、空高く飛んでいるすべての鳥にこう言った。

「さあ、神の大宴会に集まれ。**(黙示録 19:17 新共同訳)**

これが、ディナーNo.2。最初のディナーである結婚の祝宴に参加したくないなら、あなたはこのディナーに加わることになります。

鳥たちが招待されます。何のために？

空高く飛んでいるすべての鳥にこう言った。「さあ、神の大宴会に集まれ。(黙示録 19:17 新共同訳)

“小羊の祝宴”ではなく“神の大宴会”

王の肉、千人隊長の肉、権力者の肉を食べよ。また、馬とそれに乗る者の肉、あらゆる自由な身分の者、奴隷、小さな者や大きな者たちの肉を食べよ。(黙示録 19:18 新共同訳)

わたしはまた、あの獣と、地上の王たちとその軍勢とが、馬に乗っている方とその軍勢に対して戦うために、集まっているのを見た。(黙示録 19:19 新共同訳)

以前学びの中で、軍隊が集まってくる様子を見ました。

広大で何もないイズレエルの地、イスラエル北部の巨大な谷、メギドの谷と呼ばれ、ハルマゲドンとして知られる地。

この戦いについては詳細を繰り返しません、大まかに言うと、東から 2 億人の軍隊、東の王たちが来ます。そして反キリストが、自分の権力の拠点を置くためにエルサレムを攻撃します。ダニエル書 11 章によると、南の王（そこには全アフリカ諸国も含まれますが）とアラブ諸国が結束して、彼らもまたイスラエルに向かって来ます。北からはヨーロッパ諸国。こうして、全てが互いに戦うために集まって来る。

しかしその時、ハルマゲドンの戦いが始まった途端に、突然互いに戦うことを止めてしまいます。なぜなら、彼らが上を見上げると、何と、誰かがディナーのために集まっているのを見たから。

それは、炎のような目をして、頭にはたくさんの王冠があり、白い馬に乗って、後には数え切れないほどの軍勢（あなたや私）を従えている方です。

その瞬間、突如として彼らは、主に向かって武器を振りかざします。

これは、常にサタンの意図です。3 匹のカエルのような悪霊どもが言ったことを覚えていますか？

「メギドに行け。」「メギドに行け。」「メギドに行け。」これが全ての目的。

全世界の軍隊をこの地域に集める、この極悪非道な計画は、何をさせるためなのか？

最終的に、サタンが、再臨する王の王（サタンは再臨が起こる事をよく知っています）と、彼らを戦わせるためです。

この膨大で強大な軍隊が、突然、自分たちも分からない間に、超自然的な形で、邪悪にサタンの的に団結して、主を攻撃し始めます。クルーズミサイルが発射され、反撃ミサイルが飛び交い、大砲が撃ち放たれ、レーザーや全ての技術を駆使して天から来られる方に挑みます。ところがそんなもの、主に対しては何の力も持ちません。

これは必ず起こることで、私たちが目の前で目撃するのです。驚きです。

しかし、獣は捕らえられ、また、獣の前でしるしを行って偽預言者も、一緒に捕らえられた。このしるしによって、獣の刻印を受けた者や、獣の像を拝んでいた者どもは、惑わされていたのであった。獣と偽預言者の両者は、生きたまま硫黄の燃えている火の池に投げ込まれた。(黙示録 19:20 新共同訳)

残りの者どもは、馬に乗っている方の口から出ている剣で殺され、すべての鳥は、彼らの肉を飽きるほ

ど食べた。(黙示録 19:21 新共同訳)

分かりますか？主が戦い、主が殺す。

反キリストである獣と、彼の右腕である偽預言者は捕えられ、火の海に放り込まれます。そして彼らの残りの者、この壮絶な戦争で、反キリストと偽預言者サイドに立って戦っていた者たちは、主イエスの剣によって殺されます。

「みことば」。先程、“剣”とは“みことば”だとありましたね。

この方の口からは諸国の民を打つために、鋭い剣が出ていた。(黙示録 19:15)

神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、(へブル 4:12)

主は、ただみことばを話されるのです。主は、ただ話すだけ。

「Hasta La Vista, Baby (また会おうぜ、ベイビー)」

それだけ。みことばを言っただけ。額に汗して必死に、ではなく、ただみことばを話した。それだけです。

すると、主に逆らった者たちは、直ちに主の口から出るみことばによって殺されます。

そして 21 節。すべての鳥は、彼らの肉を飽きるほど食べた。(黙示録 19:21 新共同訳)

ハゲワシが急降下してきて彼らをつつき、食べ始めます。血が流れ、鳥は飛び交う。

驚きですが、これは本当に実際に起こることなのです。

ということで、あなたはどちらのディナーに出席しますか？

神の小羊の婚姻の祝宴か、それとも神の大宴会でハゲワシについばまれるか。すごい話ですね。

終わりにする前に、言っておきたいことがあるのでどうか聞いて下さい。

19 章を読みながら私が感じていたのは、「主よ。なぜですか？」「私なら、再臨という大イベントに、もっとページを費やすのに。主よ、何が驚きかって、与えられている説明と言え、主が馬に乗っていることぐらいですよ。その後起こる、軍隊が集まってきて、それから鳥たちが残りの者を食べるということには、本当に引き付けられます。でも主よ。再臨については、ほんの少ししか書かれていません。」

長い時間をかけてここまで来ました。6 章、7 章、8 章、9 章、10 章、11 章、12 章、13 章、14 章、15 章、16 章、17 章、18 章。全ては患難に関することばかり。

皆さんも、ずっとこの学びに参加していたなら分かるでしょう？学びに学んで、更に学びに学んで。

第 1 の封印、第 2 の封印、第 3 の封印、延々と第 7 の封印まで。ああ、残酷だ…。

よし、次は何だろう？そしたら次は、第 1 のラッパ、第 2 のラッパ、第 3 のラッパ、延々と第 7 のラッパまで続いて。

どうにか第 7 のラッパまで終わったら、次は第 1 の鉢、第 2 の鉢……。

6 章から 19 章までずっと、封印やらラッパやら鉢やらのさばきに痛みに悲しみで、ようやく何とか 19 章まで来たと思ったら、これだけ!? たった一つの短い章。

もし私が書くなら、きっと反対にしたでしょう。

封印とか鉢とかの苦しみの部分は、要点だけは伝えますよ。「多くの苦痛」と。

でもその後は、何章も何章も費やして、主の再臨について詳細をたくさん書くでしょう。

私はそのことをずっと考えていて、「主よ。この教会の愛しい人たちは、忠実に、来る日も来る日もこ

ここに座って、患難について、問題や災いについて勉強に勉強を重ねてきました。それが主よ、再臨については 40 分で終わりです。なぜですか!?!」

それはですね、暫くこの学びを聞いている人なら分かるでしょう。

黙示録は、その中にいくつもの層があるのです。勿論終末について書かれています。そうです。獣の印やヨーロッパの共同市場など、現在の出来事に関するあらゆることが書いてあります。

しかし決して忘れてならないのは、この書は、ヨハネという名の、実在した使徒である牧師が書いたものだということ。ヨハネは、2 章と 3 章に登場する 7 つの教会の、実在した人々を気にかけていました。それらは単なる象徴ではなく、彼が実際に関わり愛した教会であり、その人々が痛みの中にいたのです。

どういう痛みでしょうか？彼らは切り裂かれ、殺され、ローマ兵に連れ去られてライオンの餌食とされ、煮えたぎる油の中に入れられ、ノコギリで残酷に切り刻まれ、十字架に逆さまにかけられていました。この拷問で少なくとも 600 万人が死んだのです。

牧師ヨハネは、心底愛しているこの人たちが、非常に苦しんでいることを知りました。

ヨハネは、まさに終わりの時代を生きている私たちが注目している現在の出来事については、さほど重要視していません。牧師として私が思うに、ヨハネの気がかりは、当時迫害の中にいた人々です。

それで、ヨハネが章から章、そのまた次の章で伝えているのは、封印、ラッパ、それに続く鉢のこと。

聖霊に導かれて牧師ヨハネが伝えていることは、「人生とは悲劇だ」

これが、彼のメッセージです。人生は残酷で痛みで満ち、血を流す。人生は悲劇なんだ。

ヨハネが言っているのは、「あなた方が心の奥深くの領域で理解できるまで、何章にも何章にも何章にもわたって伝えよう。人生は悲劇なんだ、ということ。」

「とても素晴らしいメッセージですね、先生？」でも、これが真理です。

黙示録を書いた牧師ヨハネは真理を重んじ、この人たちに対して手加減しないで真実を伝えたのです。

真理を丸ごと。真理だけを。「だから神よ。彼らを助けて下さい。」

人生は悲劇。これが真理です。

勿論周りを見渡せば、挫折（残骸）の中にも美が存在しています。私たちには、それが以前はどれほどの美しさだったのかは分かりません。聖書にはこうあります。

被造物がすべて今日まで、共にうめき、(ローマ 8:22 新共同訳)

私たちは自然を（それが崩壊した状態の自然であっても）、山を見ては「素晴らしい！」と言い、流れる川を見ては「美しい！」と言います。しかし自然自体は、以前はどういう状態だったか、本来はどうあるべきかを知っていて、今現在呻いており、神の御子の黙示、宣言、つまり「完全なる王国」が来る日を待ち望んでいるのです。

だからイザヤはこう言いました。王が戻って来られる時には、

山と丘は、あなたがたの前で喜びの歌声を上げ、野の木々もみな、手を打ち鳴らす。(イザヤ書 55:12)

全ては崩壊しました。

以前、人は“そよ風の吹く頃、神と共に歩いていた。”崩壊する前は、そうでした。

いつも神に語りかけ、神のそばにいて、「ブレイクスルーしよう！」とか「突き進め！」とか「頑張れ！」とか「手離せ！」とか、そういうことではなく、ただ神のそばにいたのですよ、皆さん。それは、満たしと栄光が溢れるものでした。

全てが正しかったのに、そこに墮落が入り込み、今は大惨事の状態でメチャクチャです。

これは、あなたの人生に於いても事実でしょう。人生はきちんと整えられていると思っていて、この時点ではクルーズくらい行けているはずなのに、何が起きましたか？

悲劇ですよ。さあ、リラックスして羽を伸ばして、クルーズにでも行こうと思ったその時に「破壊」

「えっ!? 何でこうなるの!?!」 家族はバラバラ、商売は傾き、結婚は破綻。健康は損なわれ、腰は痛むし、頭は薄くなっていく。他にも色々あるでしょう。いいですか？

人生は悲劇なのです！

しかし 19 章には「一つだけ解決策がある」と書かれています。それは、「救い」

だから、19 章は「救い」という言葉から始まるのです。

世は“それは違う”と言うでしょう。“救いにも色んな道がある”と。それは“楽観主義”と呼ばれるもので、“輝く明日が必ず来る”

エデンの園には 2 つの木がありました。知識の木といのちの木。人が食べたのは？知識の木。それで彼は死にました。パウロは、「知識は人を高ぶらせる。」(1 コリント 8:1)

あなたも聖書博士になれるし、みことばを学ぶ生徒となって、フグのように膨れ上がって高ぶることも、そして内側から死んでいくこともできます。

全てみことばは、知って終わりではなく、知識の木ではなく、いのちの木へと導くためのものなのです。

主のすばらしさを味わい、これを見つめよ。(詩篇 34:8)

主と親密になるにはどうすればいいのでしょうか。それは、これ。

ただ聖書を学び、説教したり、されたりするのではなく、食卓に着き、ひざまずき、心を開いて、心を通わせる。

教会の中で、余りにも多くのクリスチャンや素晴らしい牧師や教師が、乾き死んでいます。余りにも多くのクリスチャンたちが、患難を上手く乗り切れていません。

なぜですか？みことばの知識はあっても、主との親密な関係がないからです。

聖書を学ぶことは、全く問題はない素晴らしいことです。

でも聖書は、あなたを食卓へ導くものであり、食卓に着いて、「主よ。あなたが必要です。あなたを味わいます。私をコントロールして下さい。私の失敗を。子供たちを怒鳴ったり、犬を蹴飛ばしたり、落ち込んだり、打ちのめされたり、あらゆることを。主よ。

あなたの血潮に感謝します。今、私は清められました。あなたと親しく交わり、聖餐にあずかります。」

これが 19 章の前半のことであり、19 章後半の勝利を握るカギとなるのです。

まず婚姻の祝宴。それで、あなたの私生活の中でも起こるハルマゲドンの戦いも乗り切ることが出来ます。

「祝宴に来て、共に食事をしよう。」「受け取って食べなさい。これはわたしのからだです。」「飲みなさい。」

聖餐は、手順通りに行う儀式ではなく、イエスとの親密な交わりなのです。それがカギです。悲劇の答えは楽観主義ではありません。答えは「救い」です。

そして「救い」への道は、頭での理解ではなく、霊的な親密さであり、主を食べ、飲むこと。それは、あなたが持つことのできる最も親密な礼拝の聖餐で、真にイエスと一つになること。これが、この先待ち受けているあなたのハルマゲドンの戦いを乗り越える秘訣です。そして時が熟せば、私たちの主が本当に来られるのです。もはや戦いはなく、何と幸せな日となることでしょう。

わたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木にとどまっていなければ、自分では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたもわたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。

わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。(ヨハネ 15:4 - 5 新改訳 2017)